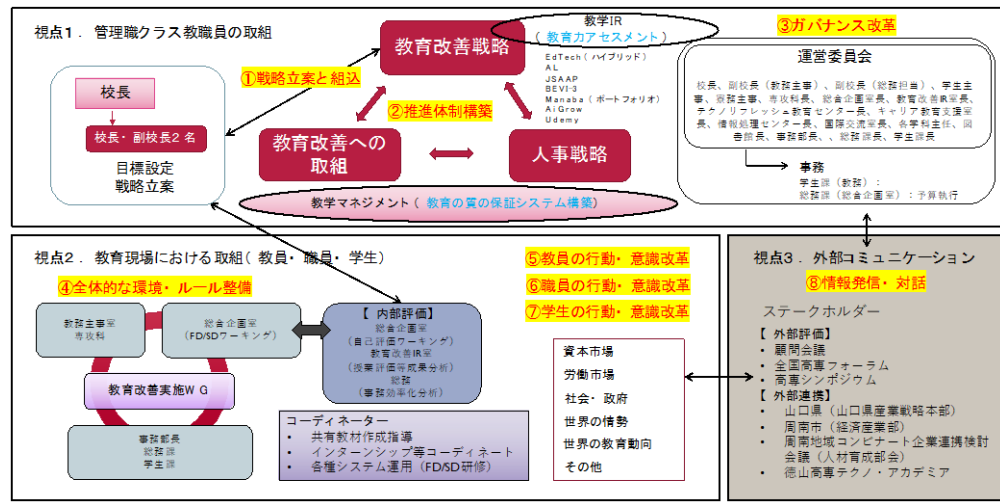


●実施概要

現 状	いつでも、どこでも、確かなセキュリティに保証されたDXによる教職員の業務改善は、遅々として進まず、テレワークの安全な実施や事務処理の効率化が急務となっている。その背景には、残念ながら教職員のICTリテラシーの低さ、学校全体の有効な教育力向上システムの欠如などが考えられる。すなわち、体系的にFD/SD活動は実施されているものの、本当に有効な教職員の能力向上のためのシステムが体系的に構築されておらず、昔ながらの教育や事務処理に固執しているのが現状である。
目 的	New Normal における教職員の能力向上に向けた取組として、管理職クラスを取組、教育現場における取組、外部コミュニケーションの3つの視点から、8つのプログラムからなる「New NormalにおけるFD/SDプログラム」(WE at NITTC)を構築し、学習者が主体となる、業務改善システムを構築する。

●取組内容と実施体制の説明

学習者としての学生が主体となったKOSEN教育改善システムの構築



KOSEN教育の世界標準化・平準化

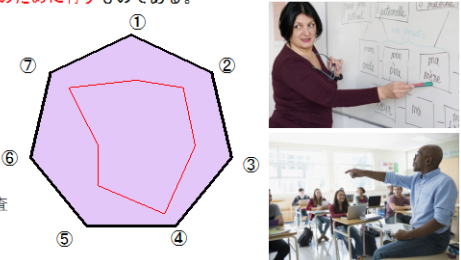
学校全体の「教育力アセスメントシステム」(仮)

学校全体の教育力のアセスメントの目的は、情報に基づいた意思決定であり、エビデンスに基づき教育改善の方向を決定し、実行するために行う。アセスメントにより、組織としてどれだけ教育の到達目標を達成できているかを判断し、効果的な改善策の提示に役立てることができる。

アセスメントは、機関別認証評価やJABEEなどにより行われるものではなく、教育の主体である学校と、その受容者である学生が学生自身のために行うものである。

基本データ：学校全体の教育力を可視化

- ① 授業アンケート (学生)
- ② 授業ピアレビュー (教員相互)
- ③ 模擬授業 (教育モニター)
- ④ 教員アンケート調査
- ⑤ 学習到達度試験評価
- ⑥ 在校生アンケート
- ⑦ 卒業生・修了生追跡アンケート調査



成果指標 (数値目標)	卒業時の教育に対する満足度90%
----------------	------------------

成果指標の 考え方	「We at NITTC」プログラムでは、主役であるべき学生が主体となって、3つの視点から、8つのプログラムからなる教育改善システムを構築することを目指しており、学校全体の教育力アセスメントと可視化により、効果的な改善策が提示されている場合には、教育全体に対する満足度の上昇が数値として可視化できる。テーマaと連動して、教育改善が実現できれば100%に近い卒業生が教育に対して満足するはずである。
--------------	--